

長岡京



延暦3年（784年）に平城京から遷都され、延暦13年（794年）に平安京に遷都されるまで機能した。

しくみ

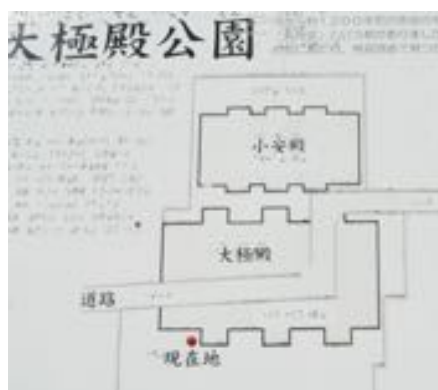
- 大村神社 545.16km - 長岡京大極殿 - 大沼浮嶋稲荷神社 545.16km
- 稲佐神社 553.44km - 長岡宮大極殿 - 湯殿山神社奥の院 553.44km
- 福満寺 529.19km - 乙訓寺 - 大朝日岳 529.19km

中道角

長岡京大極殿

延暦3(784)年11月から延暦13(794)年10月まで、山背国乙訓郡長岡村(現在の京都府長岡京市・向日市あたり)を中心として、桓武天皇の命により造営された都。

都府向日市鶏冠井町萩所



しくみ ～定規とコンパス～「奈良時代編」2017

乙訓寺

継体天皇が弟国宮（おとくにのみや）を築かれたともいわれるこの景勝の地に、推古天皇の勅願を受けた聖徳太子は、十一面観世音菩薩を本尊とする伽藍を建立させた。この寺が即ち乙訓寺である。

延暦三年（784）、桓武天皇がこの乙訓の地に遷都されたとき、京内七大寺の筆頭として乙訓寺を大増築された。この当時の境域は、南北百間以上もあり建てられた講堂は九間に四間の大建築で難波京の大安殿と同じ規模のものであった。翌年、藤原種継が春宮房の人々により暗殺されるや天皇は皇太子早良親王を当寺に幽閉された。

嵯峨天皇は、弘仁二年（811）十一月九日太政官符をもって弘法大師（空海）を別当にされた。大師の残されたご事跡も多く、八幡明神の霊告をうけて合体の像を造り（現在の本尊・八幡弘法合体大師像）また、境内に実る柑子を朝廷に献上された。（性霊集に記載）

弘仁三年（812）十月には、当寺を訪ねられた天台宗祖・伝教大師（最澄）と、密教の法論を交わされ灌頂の儀の契りを結ばれる。（伝教大師の弟子・泰範に宛てた書簡に記載）

京都府長岡京市今里3丁目14-7



左極

大村神社

藤原広嗣朝臣を祀る社である。752年。藤原広嗣は宇合の長子で大宰少貳に左遷された人であるが、僧玄昉と吉備真備の策略があったと伝えられる。

広嗣は玄昉らを排すべきことを朝廷に上表したが容れられず、筑紫で反乱を起こす。北九州の板櫃川で官軍と対陣、敗走し、五島列島から海外に逃れ4日間航行し耽羅島（済州島）を見つけたが東風を受けて接岸できず漂ううちに西風に吹き返され等保知駕とおちか島の色都しこつ島（現在の五島列島の福江島か）に漂着し、捕らえられ、天平12年（740年）、肥前国松浦郡において官軍の大將軍大野東人に斬られたと続日本紀はしるす。

広嗣の死後、都に悪疫、天災地変が続き広嗣の霊のなすところといわれ、玄昉、真備はともに筑紫に移された。真備は身をつつしんで勉学に励み、後に肥前守となり、右大臣にまで登りつめたが、玄昉は天平17年（745年）、造観世音寺使として大宰府に左遷の翌年、観世音寺の落慶法要の際に死んだ。戒壇院裏手の民家の脇に墓（写真右下）がある。

大村神社の社伝によれば、西暦752年（天平勝宝4年）、真備は広嗣の逝去の地大村に無怨寺を建立し慰霊の趣を表し、広嗣は無怨寺大明神として崇められたという。無怨寺大明神は、明治期の神仏分離令によって、大村神社と改称されている。

http://www.h4.dion.ne.jp/~toso504/saga/saga_f1.html

佐賀県唐津市浜玉町五反田219



稲佐神社

天地開闢の頃に五十猛命を祀ったとされる。飛鳥時代に百済より阿佐王子が来朝し、この地に留まり居を定め、稲佐大神とともに両親を合祀した。阿佐王子が亡くなった後、阿佐王子も合祀された。平安時代に入り、空海により稲佐泰平寺が開かれ、その鎮守神として稲佐大明神が位置づけられ、真言寺十六坊と呼ばれる一大霊所となった。貞観3年（861年）8月24日、従五位下の神階を賜り、仁和元年（885年）2月10日に従五位上に昇った。

佐賀県杵島郡白石町辺田 2 9 2 5



福満寺

延暦23年(804)、伝教大師入唐に際して発願した寺と言われ、初め天台宗であったが、後に、真言宗御室派に属した。崇敬厚く、高倉院、龜山上皇、正親町院の勅願所となり、鎌倉時代になって、源頼朝、足利尊氏の当国における祈願所となる。

佐賀市北川副町大字江上



右極

浮嶋稲荷神社

白鳳9年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮嶋稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久4年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。

山形県西村山郡朝日町大沼



湯殿山神社

開山は約1,400年前、第32代崇峻天皇の皇子である蜂子皇子が三本足の霊鳥に導かれ、羽黒山に登拝し、羽黒権現を感得、山頂に祠を創建したのが始まりとされている。皇子はさらに月山権現と、湯殿山権現を感得し、三山の開祖となった。

鶴岡市田麦俣六十里山 7

大朝日岳（朝日連峰・朝日岳）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権限・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初顕神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。朝日嶽信仰は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。

備考

三処とは、ほぼ二等辺三角形に位置する大朝日岳（大富）・小朝日岳（子守）・西朝日岳（女躰）ではないかと思われる。大富権現の「富」は出雲族の富族を表すのでは。朝廷が位を授けたのは平安時代の貞観地震の翌年のこと。過去に朝日岳に対してやましい事実があったことが裏付けられるのでは。

備考

長岡京も大沼浮島の出島ではなく、浮嶋稻荷神社を極にしていた。長岡はナーガ族の宮？

